

求められる 社協の役割とは

～社協役員の視点と責任～



二戸市社会福祉協議会
会長
山口 金男 氏

二戸市社協の最大の資産は 職員の「人間力」

一方、福祉業界はモノではなく「人の心」を販売する業種と認識しています。

人と関わる力、絆を形成する力、人の痛みに寄り添う力、常に謙虚に学ぶ力で福祉ニーズと向き合う「人間力」こそ、大事と考えています。

二戸市社協の最大の資産はこの「人間力」です。人間力を高めるために職員が成長できる環境を整え、組織を活性化させ、自己管理できる職場にすることが、トップの責任と捉えています。

当社協では、いつも利用者の立場に立つ▽確実なサービスを提供する▽職員の連携を密にし、組織を活性化する▽住民・利用者のプライバシーを尊重する、などを基本としています。

私は現場に出て地域ニーズをキャッチすることをモットーとし、点ではなく面での地域連携が必要と考えています。地域に出て収集した情報を社協活動にいかすように心掛けています。

■6月24日（1日目）

- 【報告】 岩手県地域福祉支援計画と岩手県社協活動計画が目標する（講師）岩手県社会福祉協議会事務局次長 近藤嘉文
- 【てい談】 二戸市社会福祉協議会会長 山口金男氏
- 【進行】 金ヶ崎町社会福祉協議会会長 桑島正安氏
- 【講義1】 介護保険制度改革のポイントと市町村が取組む地域支援事業～地域住民の生活課題の解決に向け市町村社協の取組み方を考える～
- 【講義2】 財政運営状況から見えてくる

市町村社協新任役員・幹部職員研修会（平成26年6月24日～25日、ホテルルイズ）には、会長・副会長・事務局長・理事など約30名が参加しました。研修会では報告・てい談・講義・実践発表などを通して「地域福祉を取り巻く現状と課題」「求められる社協の役割」「地域住民の生活課題の解決に向けた取組み」「財政運営状況から見える市町村社協の実情」「既存事業の新たな事業の取組み」などについて考えました。うち、ついに「求められる社協の役割とは」の概要をお伝えします。



研修プログラム

市町村社協の役割（講師）岩手県社会福祉協議会総務部参事兼部長 宇土沢学

6月25日（2日目）

- 【講義3】 地域福祉の推進を重視した新しい共同募金を目指して（講師）岩手県社会福祉協議会事務局次長 星拓史
- 【実践発表】 福祉課題の変化に応じた社会福祉協議会事業の展開～既存の事業と新たな事業の取組みから～（発表者）二戸市社会福祉協議会事務局長 小野寺幸司氏／いわて県央パーソナルサポートセンター主任相談支援員 和山了
- 【進行】 岩手県社会福祉協議会地域福祉企画部参事兼部長 根田秋雄

昭和50年代は経営する会社が二輪車から自動車へ切り替える時期で、私の人生が転換する時代です。当時ホームヘルパーは家庭奉仕員と呼ばれ、雪の多い地区だけに真冬でも積雪の中を自転車やバイクで移動する姿、「気持ちを形にしよう」と新車1台、その後数台を寄贈。それがきっかけで社協と関わりを持ち、介護保険事業が始まる平成12年に会長に就任しました。自動車販売業界は商品力、提案力、迅速力が問われます。

組織を裏返すとコミュニケーション力の活性化です。様々な職員勉強会のほかに全員「30分面談」で、時代の流れや方向性を共有し、悩みと捉えています。

私は現場に出て地域ニーズをキャッチすることをモットーとし、点ではなく面での地域連携が必要と考えています。地域に出て収集した情報を社協活動にいかすように心掛けています。

介護保険事業の収益低下も含めて、ここ5年ほどが社協の変革期にあり、トップとして改革への力量が問われると思っています。制度や事業に生命を吹き込み、様々な仕組みをつくることが社協人の仕事であり役割ですが、14年間社協会長を務める中で感じるものは、行政担当者は数年で部署が変わってしまうことから、行政や関係者と対等にわたりある職員の力量が求めます。

られます。昨年の大雨災害時の支援体制の反省を踏まえて、市内2団体と災害時のボランティア層に活動に関する協定を締結し、災害支援に応じる体制を整えました。社協と団体の協働でボランティア層にも厚味が増しています。目に見えるかたちの社会貢献に携わりたい方は沢山います。一層社協事業のPRが大切と考えてい

運営から経営へ 迫られる社協意識の転換



株式会社岩手互助センター
相談役
加藤 隆男 氏

加藤 隆男 氏

格差社会が進む中で
今こそ社協の出番

進の育成にも当たっています。

私は長年、企業人の一人としてボランティア活動に携わり、現在は県ボランティア団体連絡協議会会長、NPO法人岩手ボランティア育成会理事長などを務め、後

社協の大きな事業の一つは地域福祉活動の推進です。目指す社協の姿とは、地域福祉の要として住民の方々から頼りにされ、評価されることです。競争力でしのぎをけずる民間企業との違いは、理念に掲げる目標や役割の高さがあげられる一方、年間の約3割が休日で、良し悪しは別としで恵まれた職場環境にあるよう思います。



金ヶ崎町社会福祉協議会
会長
桑島 正安 氏

桑島 正安氏

地域福祉活動への思いから、強かつた私は、退職後、図書館長をしながら前社協会長から依頼されて理事を引受けたのが、社協との関わりの始まりです。

用者・町民に親愛の情をもつて接し、その真摯な関わりと福祉への意気込みは、現在も脈々と継続されています。ツツワーカとチームワーカーの良さが社協の強みの一つです。しかし、求められる社協人として力を果たすためには、地域の中に隠された生活課題

「くり事業」を5年間展開しました。「ふれ愛 みとめ愛 ささえ愛 まなび愛」の「4愛精神」は、今も職員や福祉活動に携わる町民の心の支えとなっています。

を敏感に察知できる感性を磨くことが大切です。それなくして誠心誠意、感謝の気持ちで福祉サービスを提供することも、子どもから高齢者まで暮らしやすいふれあいのまちづくりを推進することもできません。

課題は正規・非正規の経典格差の改善で、心を痛めています。

少子高齢化の進行、さらに生活困窮者への支援など、社会的サービスの需要増大と多様化は、ますます高まるばかりで、福祉関係者の出番は多くなっています。一方で逼迫した財政の中で

行政と社協が一体となつて策定した「地域計画」と「地域福祉活動計画」は、そうした時代の転換に適応し、克服するための対応の一環と考えています。「福祉活動計画」策定で心掛けたのは、住民の方々に納得してもらえるよう、分かりやすく文章も平易にすることと、わかりやすい図解を入れることでした。

平成10年に組織化された高齢者介護予防事業「ゆいっこハウス」は、町内47行政区のうち32行政区で実施し、会員

行政からの補助は今までのよう期待できない時代となり、社協は運営から経営へ意識を切り替える必要に迫られています。

社協は地域福祉推進の中核組織であり、要です。今一度、社会福祉の意味と社協の役割を共有し、問題意識を持つことが大切と思っています。求められる社協人になるには、常に課題認識を持ち続けることではないでしょうか。

3つの力と捉えています。今後、複雑・深刻化する地域福祉を推進していく上で、住民自らがボランティアであり、一緒に手を組む大切なパートナーであるといった認識の転換が求められます。私は今、1970～80年代の政治について勉強しています。当時のソビエト連邦のゴルバチョフ大統領は「日本

私は今、1970～80年代の政治について勉強しています。当時のソビエト連邦のゴルバチヨフ大統領は「日本は、一億総中流」により、最も成功した社会主義国家である」としるしています。今から30～40年前の日本では、誰もが中流と答えていました。社会状況の変化に対応した社協の取組み課題には、「一億

総中流」から「格差社会」の流れに対応する重要な役割があげられます。今こそ社協の出番であると心してください。社協役職員のみならず、地域住民や地域サービス事業所などと一緒に総合力を整え、前のめりでダイナミックに社協運営を行わない限り、社協の存在価値は薄れていくと思われます。

「格差社会」に対応する

地域福祉を推進する上でボランティアの必要性は高まっています。求められるのは「用力」「専門力」「提言力」の

※実践発表 「福祉課題の変化に応じた

社会福祉協議会事業の展開（既存事業と新たな事業の取組みから）は、8月号で紹介します。